

2020年 教育改革

なぜ、今、教育が変わるのか

21世紀の社会を生き抜く
ために必要な能力は
大きく変わる。

社会の変化 ①

あと10～20年で、
49%の職業が機械に
代替される可能性がある

社会の変化 ②

2011年にアメリカの小学校に
入学した子どもたちの65%は、
今は存在していない職業に
就くだろうと予測される

社会の変化 ③

約1/3の企業が
外国人留学生を採用。
特に1,000人以上の企業では
2社に1社とその割合は増加する

この数字は何でしょう？

53.8%

答え

現小1生が22世紀を
むかえる確率。

変化の激しい時代を生きる
子どもたちが、社会の中で
活躍できる**資質・能力**を
育成する

それが、2020年の教育改革。

どんな改革が起こるのか

1

学校教育が変わる

= 新学習指導要領へ

2

大学入試が変わる

= 大学入学共通テストへ

① 学校教育が変わる

未来を生きる子どもたちに
「どのような力(資質・能力)を
身につけるのか」「何ができる
ようになるのか」まで踏み込んで
求める教育へ

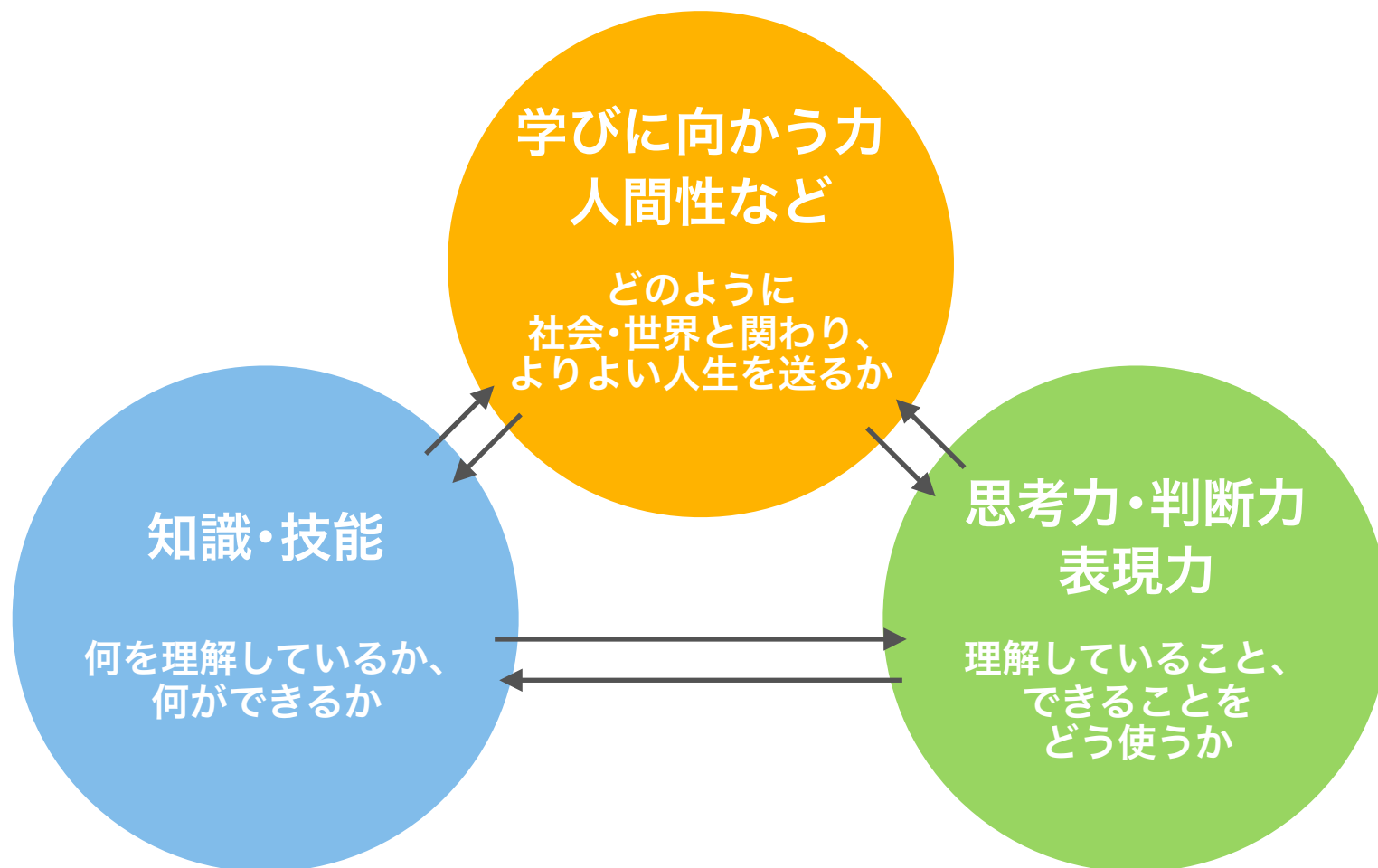
これまで

「学んだことをきちんと理解してるか（知識・技能）」
の評価が大きなウエイトを占めていた

これから

知識や技能を習得するだけではなく、
それをもとに「自分で考え、表現し、判断し、
実際の社会で役立てる」ことが求められる

育成を目指す資質・能力の3つの柱



資質・能力を身に付けるために
「どのように学ぶ」のか



「主体的・対話的で深い学び」を
取り入れた授業が実施される。

「主体的・対話的で深い学び」(≡アクティブ・ラーニング)とは。

教員による一方通行の授業から、
生徒自身が主体的・能動的に
参加する授業・学習へ。

- 発見学習
- 問題解決学習
- 体験学習
- 調査学習
- グループワーク
- ディベート
- 教室内でのグループディスカッション

資質・能力を身に付けるために
「何を学ぶ」のか



教科・科目の構成や
目標・内容が新しくなる。

教科、科目の新設例

- 小学校：3・4年生での「外国語活動」
5・6年生での「英語」教科化
- 高校：「公共」「歴史総合」「地理総合」
「理数探究」などの新設

② 大学入試が変わる

センター試験に代わり
「**大学入学共通テスト**」導入。

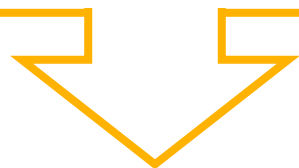
「思考力・判断力・表現力」
「学びに向かう力」も重視され、
入試で**選抜に使う材料が多様化**。

これまで

「大学入試センター試験」

出題形式：マークシート式

英語：2技能評価（聞く、読む）



これから

「大学入学共通テスト」

出題形式：国語・数学で記述式問題導入

英語：4技能評価「聞く」「読む」「話す」「書く」

「記述式問題の導入」

会話文、データ、図など、多様なテキストを読みとり解釈し、
複数の情報を組み合わせて考えをまとめたり、
的確に説明する力が問われる

- 国語

80～120字程度で答える問題を3問程度

- 数学

「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」受験者を対象に「数学Ⅰ」の範囲から3問程度

「英語4技能評価」

英語を使う力（英語の知識・技能を活用して、思考・判断したことを表現できる力）を4技能で評価されるように

- 2技能（聞く、読む）から4技能（聞く、読む、話す、書く）へ
- 資格・検定試験を活用
- ▶ 活用可能な資格・検定試験（7種）
「GTEC※1」、ケンブリッジ英語検定、TOEFL、IEALS、TOEIC、TEAP、実用英語技能検定（英検）※2

※1 「GTEC」は、株式会社ベネッセコーポレーションの登録商標です。

※2 「従来型」を除く、新設される「公開会場実施」「1日完結型」「4技能CBT」。

※ 英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。

「多面的・総合的評価」

個別試験や私立大学試験については整理・大別され、
多面的な能力や適性を評価する試験へ。

- 総合型選抜（現AO入試）・学校推薦型選抜（現推薦入試）

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の適切な評価のため、各大学が定め
実施する評価方法もしくは「大学入学共通テスト」のいずれかの活用を必須化

- 一般選抜

筆記試験以外に、調査書・本人が記載する学習記録、成果などを積極的に加え評価

未来を見据えた
教育の大改革が
スタートします。